

大学における中国語多読の試み

石井 友美（岡山大学教育推進機構）

An Attempt at Extensive Reading in Chinese at the Pre-Intermediate Level

Tomomi ISHII

(Institute for Promotion of Education and Campus Life, Okayama University)

Abstract

This study examines the implementation of the instruction for extensive reading in Chinese among 19 learners who completed one year of beginner-level Chinese studies comprising two 100-minute sessions per week. Regarding survey methods, a questionnaire using a five-point Likert scale and open-ended responses was utilized. The findings revealed that learners recognized extensive reading as an effective strategy for improving their reading comprehension and vocabulary. However, some challenges exist, including the lack of suitable books for extensive reading practices and difficulties in sustaining extensive reading habits.

キーワード or Keywords : 中国語多読、準中級レベル、多読ルール、読解力、語彙力

1. はじめに

本稿は週 100 分、計 32 週の中国語初級の学習を終えた学習者（以下、中国語準中級者と記す）を対象にした中国語多読授業の実践報告である。多読とは学習対象の外国語を多く読むことであり、英語教育、日本語教育ではさかんに取り入れられ、語学レベル向上などの良い効果が報告されている。中国語多読は石井（2020）や呉（2025）が大学の授業で取り入れており、実践報告が少数であるが、存在する。そもそも多読は学習者が長文や生きた外国語に多く触れる活動であるため、学習者は母語話者が読む書籍や教科書には出てこない長文を理解できる基礎的な語学力を有することが望ましいと考えられる。実際、英語、日本語教育での多読授業は中級、上級者の学習者を対象として行われている。今回の報告で多読に参加した学習者は準中級者であり、今までの実践報告における英語、日本語多読参加者と比べると学習時間が短い。しかしながら日本人は初級、準中級者でありながらも中国語、特に読解については漢字を使用しているため心理的、技術的にも有利な立場にあると言える。日本人学習者の読解に対する心理的な面を指摘した報告に陶琳（2012）が挙げられる。陶氏は1年間の中国語学習を終えた大学生 328 人に中国語学習の意識調査を行った。この中の「中国語の学習について、何が一番難しいと思いますか」というアンケートの問いに対して「文章の読解能力、翻訳」と回答した学生は全体の 1.8%であったと報告されている。このことから学習者にとって心理的に中国語読解は困難な項目ではないことわかる。また技術面においても日本人学習者が有利な立場にあると指摘した研究がある。呉門吉（2008）は中国語初級、中級レベルの韓国、日本、欧米の留学生を対象に読解における未知語の推測ストラテジーの使用状況を探った。その結果、日本人留学生は「句法結構」「文法構造（による推測）」¹、「語義搭配」「意味の組み合わせ（による推測）」、

“語素猜詞”「語素による推測」、形旁猜詞「漢字の偏や旁による推測」、「与母語対照」「母語との対照」、「近语境」「近い文脈（からの推測）」、「大的上下文语境」「広範な前後の文脈（からの推測）」のストラテジーの使用率が韓国、欧米の留学生よりも高いということがわかった。またこの調査で興味深いところは韓国、欧米の留学生は初級から中級にレベルが上がるにつれて、これらのストラテジーを使用する回数が増えるのに対して、日本人留学生は初級レベルから韓国、欧米の中級者よりも“大的上下文语境”を除いたこれらのストラテジーを多く使用し、中級レベルになってもその使用率はあまり変化がないという指摘である。これはつまり日本人学習者が初級レベルから多くの読解ストラテジーを使用し、読解することが可能であるということを示している。このように日本人学習者は普段、漢字を使用しているため、語学レベル的には中級者未満でありながら中国語の文に抵抗がなく、多くのストラテジーを使用し、意味を推測できるといった他の国の学習者にはない「特殊な学習状況」を持つ。本報告では以上のような学習時間は短い、特殊な学習状況を持つ日本人学習者が多読を行うことにより、多読に対してどのような考え方を示すのか「中国語学習の貢献度」、「多読のルール」、「多読の楽しさ」の3つに分けて探っていくものである。

2. 授業方法

2. 1 対象者

今回の調査で対象としたのは202X年、「中国語読解」の授業を履修した中国語準中級者19名である。この19名は先ほど記したように1年間の中国語学習を修了した学生である。彼らは大学に入って初めて中国語を学び、中国語学習2年目で中国語多読を始めたということになる。多読授業は1学期～4学期に実施され、学生はいずれの学期でも自由に履修することが可能である。そのため1学期のみ履修、1, 2学期を継続して履修、1, 3, 4学期を履修など履修状況はさまざまである。19名の履修期間の内訳は以下ようになる。以下のA～Sは履修学生を表す。

表 1

	履修学期
A	1 学期 (多読参加時間：8 週間)
B	
C	
D	
E	
F	
G	
H	
I	
J	2 学期 (多読参加時間：8 週間)
K	
L	

M	1, 2 学期 (多読参加時間 : 16 週間)
N	
O	
P	
Q	1, 3, 4 学期 (多読参加時間 : 24 週間)
R	2, 3, 4 学期 (多読参加時間 : 24 週間)
S	1, 2, 3, 4 学期 (多読参加時間 : 32 週間)

2. 2 使用教材

今回の多読授業では幼児用の絵本 285 冊、GR(Graded readers) 178 冊、児童書 34 冊、漫画 330 冊を使用した。これらの書籍をレベル別に分け、難易度順にピンク、赤、黄色、オレンジ、青のシールを貼り、難易度が学習者にわかるように配置した。尚、漫画に関してはシールを貼らなかった。それは漫画がもともと日本語で出版されたものであり、日本語原本を読んでいるか否かで難易度が大きく異なるため、シールによって難易度を示すことはしなかった。

2. 3 授業の流れ

授業は以下の図のような時間配分で行った。授業時間は 50 分の授業を 2 コマ連続で行った 100 分である。

表 2

時間	活動内容
80 分	多読活動
15 分	読書記録手帳の記入と貸し出し図書 の選定。
5 分	教員による質問

学習者は上記の図 1 の 80 分の多読活動にて前述した書籍から好きなものを選び、読書を進める。通常の読解授業とは異なるため、全員で同じものを読むことはしないで、一人一人が好きな書籍を選んで読書を進めた。また上記の読書記録手帳というのは以下の図 1 のようなもので読んだ書籍の題名と感想、および理解できた単語、わからなかった単語を記すものである。

図 1

No.	月/日	タイトル	評価	感想・メモ
				分からない単語: 理解できた単語:
				分からない単語: 理解できた単語:
				分からない単語: 理解できた単語:
				分からない単語: 理解できた単語:
				分からない単語: 理解できた単語:
				分からない単語: 理解できた単語:

評価: ◎・・・すごく面白い ○・・・面白い △・・・普通 ×・・・つまらない

履修者は上記のような多読活動を毎学期7回行った。評価として8回目の授業に最終発表の課題を課した。発表では履修学期に読んだ書籍の中から一番気に入った本を1冊選び、そのストーリー、登場人物、記憶に残った単語のプレゼンテーションを行う。学習者にはできる範囲で中国語を使用して発表するように指示し、多読の中で触れた中国語をアウトプットする機会として中国語の作文、発話を積極的に行うように促した。

2. 4 多読のルールについて

今回の多読授業では NPO 多言語多読が推奨する以下の多読のルールを採用し、多読活動を行った。

1. 自分にとってやさしいレベルから読む
2. 辞書を引かないで読む
3. わからない言葉や単語は飛ばして読む
4. 進まなくなったら他の本を読む

上記のルールは通常の読解授業と異なった読み方を推奨していると言える。通常の読解授業ならば精読を採用し、学習者のレベルよりも難しい内容を取り上げ、1つ1つの単語の意味や文法を辞書で調べながら理解していく方法をとる。このような方法は精読を行う上では効果的なものであるが、多く書籍を読み、外国語を母語に訳すことなく、そのまま意味をとらえる読み方をする多読となると状況は異なってくる。栗野他（2012）は多読の失敗例として難しい書籍を選び、辞書を引きながら、1つ1つの意味を確認して書籍を読み進めていたが、結局、1、2ページで読むのを中断してしまう学習者の例を挙げている。多読は多くの書籍を読むことを目標とするため、いかに学習者に継続的な読書を続けさせるかが重要となる。そのためには易

しい本を読んで、書籍1冊を読了する達成感を得て、モチベーションを保つ必要があり、辞書を用いないことで、辞書を引き、すべての意味を確認する骨の折れる作業をなくす必要がある。さらに気が乗らない書籍をいつもまでも読み続け、読書の楽しさを忘れてしまうことも防ぐ必要がある。つまり上記のルールは学習者が読書のモチベーションを上げ、継続的に読書をしていくためのものである。今回の授業でも多読的な読み方、つまり多くの書籍に触れ、中国語を日本語に訳すことなく、中国語のまま理解する読み方の習得を目指すものであるため上記の4つのルールを採用し、多読活動を行った。

3. 調査方法

本調査方法は2種類ある。1つは20の質問からなる5段階のリッカート尺度を用いたアンケートである。もう1つは自由記述による回答である。以下、それぞれの具体的な調査方法と結果を説明していく。

3. 1 アンケート

アンケートは多読活動の学期の中間（授業開始から4週目）と学期の最後（授業が開始して8週目）に各学期計2回実施した。質問内容は「中国語学習への貢献度」に関する設問7問、「多読のルール」に関する設問を4問、「読書の楽しさ」に関する設問を5問設けた。また2学期以上の履修者には中国語学習への貢献度を問う項目で前学期と比べて中国語能力の向上を問う質問を2問、読書の楽しさを問う項目において前学期と比べて多読に対する考え方の変化を問う質問を2問追加した。学習者にこれらの質問を5段階で評価させた。尚、今回の調査では学期の最後のアンケート（授業開始より8週目のアンケート）に着目し、分析を行った。複数の学期を履修している学習者にはその学習者にとって最後の学期のアンケートを使用した。

3. 2 自由記述

自由記述は上記で説明した5段階のリッカート尺度のアンケートの後に対象者に自由に多読授業の感想を記入してもらった。自由記述に関しては学期中2回のアンケートに記述されたものをすべて分析した。複数の学期履修者に関してもすべて記述したものを分析対象とした。

4. アンケート結果

本章ではアンケートの結果を見ていく。

4. 1 中国語学習への貢献度についての質問

まずは1の①～⑦の中国語学習への貢献度についての質問の結果を見ていく。表3は設問「①中国語を読む能力を伸ばすことに役立つか。」の集計結果である。一番上の行の「全体」は回答者数19名の回答とその比率を表す。下に続く行は表1で示した学生A～Sを多読参加時間で3つのグループに分類し、それぞれのグループの回答と回答比率を表したものである。

表 3 「①中国語を読む能力を伸ばすことに役立つか。」

	合計 %	1 ぜんぜん そう思わ ない	2 そう思わ ない	3 どちらで もない	4 そう思う	5 強くそう思 う
全体	19人 100%			1人 5.26%	15人 78.9%	3人 15.7%
A～L	12人 100%				12人 100%	
M～P	4人 100%			1人 25%	2人 50%	1人 25%
Q～S	3人 100%				1人 33.3%	2人 66.6%

上記の表 3 から 9 割以上の学習者が読解能力の向上を感じていることがわかる。またグループごとの集計から比較的活動期間が短い A～L の多くの学習者も読解力が向上したと感じていることがわかる。次に設問②「中国語の本を読むのに慣れることに役立つか。」の結果を上記同様の集計方法で見えていく。

表 4 「②中国語の本を読むのに慣れることに役立つか。」

	合計 %	1 ぜんぜん そう思わ ない	2 そう思わ ない	3 どちらで もない	4 そう思う	5 強くそう思 う
全体	19人 100%				8人 42.1%	11人 57.8%
A～L	12人 100%				8人 66.6%	4人 33.3%
M～P	4人 100%				3人 75%	1人 25%
Q～S	3人 100%					3人 100%

表 4 からすべての学習者が多読を通して中国語の読解に慣れたと感じていることがわかる。また比較的長く多読をした Q～S の学習者は読解の慣れを強く感じていることもわかる。次に設問③のピンイン が記載されていない本に慣れたか。」の結果を見ていく。

表5 「③ピンイン²が記載されていない本に慣れたか。」

	合計 %	1 ぜんぜん そう思わ ない	2 そう思わ ない	3 どちらで もない	4 そう思う	5 強くそう思 う
全体	19人 100%		1人 5.2%	1人 5.2%	12人 63.1%	5人 26.3%
A~L	12人 100%		1人 8.3%	1人 8.3%	7人 58.3%	3人 25%
M~P	4人 100%				3人 25%	
Q~S	3人 100%				1人 33.3%	2人 66.6%

上記の表5から多くの学習者はピンインが記載されていない書籍に慣れたと感じているが、一部の学習者は慣れを感じていないということわかる。また慣れを感じていないのは活動期間が短いA~Lであり、M~P、Q~Sに関してはおおむねの学習者が慣れたと感じていることがわかる。

表6 「④分かち書き³がなされていない読み物に慣れたか。」

	合計 %	1 ぜんぜん そう思わ ない	2 そう思わ ない	3 どちらでも ない	4 そう思う	5 強くそう思 う
全体	19人 100%		1人 5.2%	2人 10.5%	11人 57.8%	5人 26.3%
A~L	12人 100%		1 8.3%	1 8.3%	6 50%	4 33.3%
M~P	4人 100%			1 25%	3 75%	
Q~S	3人 100%				2 66.6%	1 33.3%

表6からA~Lの一部の学習者が分かち書きがなされていない読み物の慣れを感じていないが、3学期以上活動に参加しているQ~Sは慣れを感じていることがわかる。

表 7 「⑤語彙力を伸ばすことに役に立つか。」

	合計 %	1 ぜんぜん そう思わ ない	2 そう思わ ない	3 どちらで もない	4 そう思う	5 強くそう思 う
全体	19人 100%		1人 5.2%	3人 15.7%	11人 57.8%	4人 21%
A～L	12人 100%		1人 8.3%	2人 16.6%	8人 66.6%	1人 8.3%
M～P	4人 100%			1人 25%	2人 50%	1人 25%
Q～S	3人 100%				1人 33.3%	2人 66.6%

表 7 からおおむねの学習者は語彙力が向上したと感じていることがわかる。比較的参加時間が短い A～L も 4 「そう思う」、5 「強くそう思う」を選択した学習者が 7 割以上いることから表 3 で示した読解力向上と同じく活動時間に関係がなく、多くの学習者が語彙力の伸びを感じていることがわかる。

表 8 「⑥話す能力を伸ばすことに役に立つか。」

	合計 %	1 ぜんぜん そう思わ ない	2 そう思わ ない	3 どちらで もない	4 そう思う	5 強くそう思 う
全体	19人 100%		7人 36.8%	6人 31.5%	6人 31.5%	
A～L	12人 100%		3人 25%	6人 50%	3人 25%	
M～P	4人 100%		4人 100%			
Q～S	3人 100%				3人 100%	

表 8 から全体的に話す能力の向上を感じていなく、特に A～L、M～P は話す能力向上はあまり感じていないということがわかる。

表 9 「⑦書く能力を伸ばすことに役に立つか。」

	合計 %	1 ぜんぜん そう思わ ない	2 そう思わな い	3 どちらでも ない	4 そう思う	5 強くそう 思う
全体	19人 100%		4人 21%	10人 52.6%	5人 26.3%	
A~L	12人 100%		1人 8.3%	8人 66.6%	3人 25%	
M~P	4人 100%		2人 50%	2人 50%		
Q~S	3人 100%		1人 33.3%		2人 66.6%	

表 9 から話す能力と同様に書く能力の向上も全体的に感じておらず、3つのグループのいずれにも2の「そう思わない」を選択した学習者がいることから活動時間にかかわらず書く能力に関しては多くの学習者が向上したと感じていないことがわかる。次に設問⑧「前学期に比べて中国語能力が向上したか。」の結果を見ていきたい。設問⑧は質問の内容上、2学期以上を履修した学習者 M~P、Q~S（7名）を対象としたものである。

表 10 「⑧前学期に比べて中国語能力が向上したか。」

	合計 %	1 ぜんぜんそ う思わない	2 そう思わな い	3 どちらで もない	4 そう思う	5 強くそう 思う
全体	7人 100			1人 14.2%	6人 85.7%	
M~P	4人 100			1人 25%	3人 75%	
Q~S	3人 100				3人 100%	

上記から Q~S の方が M~P よりも前学期に比べて中国語能力が向上したと感じていることがわかる。また設問⑧において4「そう思う」、5「強くそう思う」と回答した学習者に対して以下の設問⑨を設けた。

設問⑨上記の設問で「4. そう思う」、5「強く思う」と回答した人に質問です。具体的に向上したと思われる能力は何ですか。

1. 読解力、2. 作文力、3. 会話力 4. 語彙力（語彙が増えた）5. その他

上記の設問を複数回答可で尋ねたところ「1. 読解力」を選択した学習者は4名、「2. 作文力」、「3. 会話力」を選択した学習者は0名、「4. 語彙力（語彙が増えた）」を選択した学習者は5名いた。また「5. その他」を選択し、「読解のスピードが上がった」と回答した学習者が1名いた。

以上が中国語学習への貢献度に関する設問である。以下、上記の結果をまとめていく。中国語の能力のうち読む能力、語彙力の伸びは活動時間を問わず多くの学習者が向上したと感じており、また読解の慣れについてもすべての学習者が慣れたと感じていることがわかる。ただし読解の慣れのうちのピンインの記載のない読み物、分ち書きがなされていない読み物に関しては比較的活動期間が短い学習者は慣れを感じていない。

4. 2 多読のルールについての質問

次に多読のルールについてのアンケート結果を見ていきたい。集計方法は前節と同様である。

表 1 1 ①やさしいものから読むについてどう思うか。

	合計 %	1 悪い	2 あまり良 くない	3 ふつう	4 少し良い	5 良い
全体	19人 100%				5 26.3%	14 73.6%
A~L	12人 100%				2 16.6%	10 83.3%
M~P	4人 100%				2 50%	2 50%
Q~S	3人 100%				1 33.3%	2 66.6%

表 1 1 から「やさしいものから読む」というルールに関してはすべての学習者が肯定的に捉えていることがわかる。また比較的短い多読活動をした A~L も肯定的にとらえていることがわかる。

表 1 2 ②辞書を引かないで読むについてどう思うか。

	合計 %	1 悪い	2 あまり良 くない	3 ふつう	4 少し良い	5 良い
全体	19人 100%		2 10.5%	6 31.5%	8 42.1%	3 17.5%
A~L	12人 100%		1 8.3%	4 33.3%	5 41.6%	2 16.6%

M~P	4人 100%		1 25%	1 25%	2 50%	
Q~S	3人 100%			1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%

上記表12から「辞書を引かない」というルールは2「あまり良くない」、3「ふつう」が4割以上を占め、4「少し良い」、5「良い」が半数以上を占めていることがわかる。このルールに関して肯定的な見方をしている学習者が優勢を占めているが、2「あまり良くない」、3「ふつう」が4割以上を占めていることは軽視することはできない。この結果については自由記述でも学習者の考えを窺い知ることができる。次章の自由記述で説明していきたい。

表13 ③わからないところを飛ばして読むについてどう思うか。

	合計 %	1 悪い	2 あまり良く ない	3 ふつう	4 少し良い	5 良い
全体	19人 100%		2人 10.5%	4人 21%	7人 36.8%	6人 31.5%
A~L	12人 100%		2人 16.6%	3人 25%	3人 25%	4人 33.3%
M~P	4人 100%			1人 25%	3人 75%	
Q~S	3人 100%				1人 33.3%	2人 66.6%

表13から「わからないところを飛ばして読む」に関して多くの学習者は肯定的に捉えていることがわかる。また比較的多読時間が短いA~Lの2名がこのルールを否定的に捉えているが、M~P、Q~Sと多読時間が長くなるとこのルールについて否定的な見方をする学習者はいなくなることがわかる。

表14 ④進まなくなったら他の本を読むについてどう思うか。

	合計 %	1 悪い	2 あまり良 くない	3 ふつう	4 少し良い	5 良い
全体	19人 100%			1人 5.2%	8人 42.1%	10人 52.6%
A~L	12人 100%			1人 8.3%	5人 41.6%	6人 50%

M～P	4人 100%				1人 25%	3人 75%
Q～S	3人 100%				2人 66.6%	1人 33.3%

上記の表14から「進まなくなったら他の本を読む」について否定的な見方をしている学習者はいないことがわかる。以上が多読の4つのルールに関するアンケート結果である。以下、これをまとめていく。

「①やさしいものから読む」「④進まなくなったら他の本を読む」に関しては多読参加時間にかかわらず多くの学習者が肯定的な見方をしている。その一方で「②辞書を引かないで読む」「③わからないところを飛ばして読む」は肯定的な見方と否定的な見方が分かれることがわかる。またルール③に関しては多読参加時間を増えるにつれて否定的な見方が減る。

4.3 読書の楽しさについての質問

次に読書の楽しさについての結果を見ていく。

表15 ①中国語の本を読むことは楽しいか。

	合計 %	1 ぜんぜん そう思わ ない	2 そう思わ ない	3 どちらで もない	4 そう思おう	5 強くそう思 う
全体	19人 100%		1人 5.2%	1人 5.2%	9人 47.3%	8人 42.1%
A～L	12人 100%			1人 8.3%	5人 41.6%	6人 50%
M～P	4人 100%		1人 25%		3人 75%	
Q～S	3人 100%				1人 33.3%	2人 66.6%

表15から多くの学習者が多読を通して読書の楽しさを感じていることがわかる。

表16 ②中国語をたくさん読むことは楽しいか。

	合計 %	1 ぜんぜんそ う思わな い	2 そう思わな い	3 どちらで もない	4 そう思う	5 強くそう思 う

全体	19人 100%		2人 10.2%	1人 5.2%	11人 57.8%	5人 26.3%
A~L	12人 100%		1人 8.3%	1人 8.3%	7人 58.3%	3人 25%
M~P	4人 100%		1人 25%		3人 75%	
Q~S	3人 100%				1人 33.3%	2人 66.6%

表16から多くの学習者がたくさんの中国語に触れることは楽しいと感じているが、一部の学習者はそのように感じていないことがわかる。

表17 ③中国文化を学ぶことに役に立つか。

	合計 %	1 ぜんぜん そう思わ ない	2 そう思わ ない	3 どちらで もない	4 そう思う	5 強くそう思 う
全体	19人 100%		1人 5.2%	1人 5.2%	7人 36.8%	10人 52.6%
A~L	12人 100%			1人 8.3%	3人 25%	8人 66.6%
M~P	4人 100%		1人 25%		2人 50%	1人 25%
Q~S	3人 100%				2人 66.6%	1人 33.3%

表17から多くの学習者が多読を通して中国文化を学ぶことができると感じているが、一部の学習者が感じていないことがわかる。

表18 ④これからも中国語多読を続けたいか。

	合計 %	1 ぜんぜん そう思わ ない	2 そう思わ ない	3 どちらで もない	4 そう思う	5 強くそう思 う
全体	19人 100%			6人 31.5%	11人 57.8%	2人 10.5%

A～L	12人 100%			4人 33.3%	8人 66.6%	
M～P	4人 100%			2人 50%	2人 50%	
Q～S	3人 100%				1人 66.6%	2人 33.3%

上記の表18から多読継続意志が強い学習者、つまり4「そう思う」もしくは5「強くそう思う」を選択した学習者と3の「どちらでもない」を選択し、継続を決めかねている学習者に意見が分かれるということがわかる。

表19 ⑤この学習方法は効果があったと思うか。

	合計 %	1 ぜんぜん そう思わ ない	2 そう思わ ない	3 どちらで もない	4 そう思う	5 強くそう思 う
全体	19人 100%				15人 78.9%	4人 21%
A～L	12人 100%				9人 75%	3人 25%
M～P	4人 100%				4人 100%	
Q～S	3人 100%				1人 66.6%	2人 33.3%

表19から多読参加時間にかかわらずすべての学習者が多読は良い勉強方法だと感じていることがわかる。次に設問⑥「前学期に比べて多読に対する考え方が変わったか。」の結果を見ていきたい。設問⑥は質問の内容上、2学期以上を履修した学習者M～P、Q～S（7名）を対象としたものである。

表20 ⑥前学期に比べて多読に対する考え方が変わったか。

	合計 %	1 ぜんぜん そう思わ ない	2 そう思わ ない	3 どちらで もない	4 そう思う	5 強くそう思 う
全体	7人 100			4人 57.1%	2人 28.5%	1人 14.2%

M～P	4人 100			2人 50%	1人 25%	1人 25%
Q～S	3人 100			2人 66.6%	1人 33.3%	

表20から多読に対する考え方の変化は多読参加時間にかかわらず考え方が変わったと考える学習者とどちらでもないとする学習者で分けられるということがわかる。またこの設問⑥に4「そう思う」、5「強くそう思う」と回答した3名の学習者に対して複数回答可で以下の質問⑦をした。

設問⑦上記の設問に「1. 非常に変わった」、「2. 変わった」、「少し変わった」と回答した人に質問です。具体的にはどのように変わりましたか。

1. 楽しい、面白いなどの良いイメージ
2. つまらない、退屈などの悪いイメージ
3. どちらでもない。

3名はいずれも1を選択した。以上、読書の楽しさについての質問についてのアンケート結果を見てきた。以下、まとめていく。

「①中国語の本を読むことは楽しいか。」、「②中国語をたくさん読むことは楽しいか。」、「③中国文化を学ぶことに役に立つか。」、「⑤この学習方法は効果があったと思うか。」の4つに関しては学習者全員もしくはおおむねの学習者が肯定的な回答している。その一方で「④これからも中国語多読を続けたいか。」に関しては肯定的な見方と否定的な見方が分かれた。

5. 自由記述

本章では自由記述の内容について説明していく。自由記述はアンケート回答後に「(1～4学期の)中国語多読を終えて、感じたことを自由に書いてください。」という設問を設け、自由に記述してもらった。共通する記述内容をまとめ、その件数を数え、カテゴリごとに分類した表が以下の表21～24である。尚、複数の学期を履修している学習者の記述に関してはすべての学期の記述を考察対象とした。

5. 1 中国語能力に関して

表21

中国語能力に関して (49件)	読解能力が向上を感じた	10人
	語彙の増加、定着を感じた	10人
	語彙力不足を感じた	9人
	読解スピードの向上を感じた	4人
	ピンインがないことへの不満を感じた	4人

中国語能力に関して（４９件）	読解の苦手意識の減少した	３人
	初級の復習になった	２人
	文法知識の不足を感じた	２人
	ライティング能力が向上したと感じた	１人
	スピーキング能力が向上したと感じた	１人
	中国語能力の不足を感じた	１人
	多読に対する不満を感じた	１人
	日本語からの悪い影響（母語干渉）を受けた	１人

上記の表から多くの学習者が「読解力向上」「語彙の増加、定着」を感じていることがわかる。その一方で「語彙力不足」を感じている学習者も多いため、多読を通して語彙は増加したが、まだ理解できない語彙が多く存在しているということがわかる。

５．２ 多読のルールに関して

表 2 2

多読のルールに関して（９件）	辞書を引かないことへの不満を感じた	６人
	進まなくなったらやめるに対する肯定的な意見	２人
	辞書を引かないことに対する肯定的な意見	１人

上記の表は多読のルールに関する記述である。前章のアンケート結果同様に「辞書を引かないこと」に関する不満が多々見られた。

５．３ 多読に対する感想

表 2 3

多読の感想について（２５件）	読書の楽しさを感じた	１３人
	中国文化の理解と関心が高まった	５人
	今後の多読の継続意志と挑戦	５人
	課外読書への不満を感じた	１人
	読解に対する嫌悪を感じた	１人

上記の表は多読の感想についての記述である。上記から多くの学習者が多読を通して読書の楽しさを感じていることがわかる。

5. 4 読み物に関して

表 2 4

読み物について (24件)	漫画は読みやすいと感じた	8人
	漫画を読むことは楽しいと感じた	8人
	漫画による読解力向上を感じた	2人
	イラストのある本は理解しやすいと感じた	2人
	初めて読む本は難しく感じた	2人
	Graded Chinese Readers は読みやすいと感じた	1人
	小説は難しく感じた	1人

上記の表は今回の多読活動で使用した書籍に関する記述である。上記から多くの学習者が漫画に対して良い感想を持っていることがわかる。今回の活動で使用した漫画はもともと日本語で出版されたものを中国語に翻訳したものである。これからの漫画は有名な作品であり、多くの学習者が原作の日本語版からだいたいストーリーを知っているため、他の書籍よりも楽しさや読みやすさを感じている。しかしこの読みやすさや楽しさが中国語能力向上に繋がるかは今後、慎重に考察していかなければならない。

6. まとめと今後の課題

最後に本稿のアンケートおよび自由記述の内容をまとめ、今後の中国語多読における課題を考察していきたい。

・中国語学習への貢献度

「中国語学習への貢献度」はアンケート、自由記述から読解力向上、語彙力向上に関しては多くの学習者が感じていたが、話す力、書く力の向上に関してはあまり感じられていないことがわかった。これについてはこれらの能力は今回の多読授業では最終発表でしか練習する機会がなく、多読で得られた知識を活かす場が少なかったことが原因の1つと考えられる。今後は授業の取り組みに発話練習や作文練習、つまりアウトプットの機会を積極的に取り入れていくことが必要であると考え。また中国語読解の慣れについても読解のそのものの慣れについてはおおむねの学習者が感じていたが、ピンインのない文や分かち書きがされていない文に関しては半数以上の学生が慣れたとしているものの、2、3の評価をしている学習者も散見された。今後はピンインが付されている GR を積極的に取り入れていきたい。

・多読のルール

ルールに関しては②の「辞書を引かないで読む。」、③の「わからないところを飛ばして読む。」が一部の学習者にとって受け入れがたいルールであることがわかった。またこれと同時に日本人学習者は漢字を日常使用しているため漢字には抵抗がないが、多読的な読み方を中国語で行うことは準中級者にはまだ難しいということもわかった。この原因として考えられるのが、現段階で準中級学習者にとって中国語多読に適した教材が存在しないということである。これを

表す学習者の意見として自由記述において「わからない単語は調べたい。」「読み方がわからないピンインは調べたい。」「分からない箇所を飛ばすと、わからない箇所がどんどん増えて全体のストーリーがわからなくなる」などの感想があった。今後は漢字を普段使い長文読解に比較的抵抗がない日本人の初級者、準中級者に適した多読用の読み物を作ることを課題にしていきたい。

・「中国語の楽しさ」

中国語の楽しさについてアンケートと自由記述から多くの学習者が多読に対して肯定的な感想を持っているということがわかる。しかし継続的に多読を行っていききたいかの設問に関しては3の「どちらでもない」の選択をした学習者が多々見られた。実際、今回の多読授業も1学期から4学期と学期を重ねるごとに履修者は減少していった。多読に対する肯定的な感想を持ちながら、継続ができていないというのは非常に残念なことである。そのためどのように学習者に長期的な多読活動を促すかを今後の課題にしていきたい。英語多読では授業と図書館が連携し、多読を進めていく方法で長期的な多読活動を促している。西澤他（2008）では全学科共通授業の「英語講読」で多読を紹介し、年に数回、授業時間内の一部を多読に充てる実践を行い、学習者が自主的に図書館に所蔵されている英語書籍を借り、多読を実践することを促している。このように中国語多読でも履修者の多い「中国語初級」の授業内で多読を紹介し、実践を行い、初級修了者を中国語多読に繋げていく試みを検討していきたいと考えている。

7. おわりに

以上、「中国語学習への貢献度」「多読のルール」「中国語の楽しさ」を中心に準中級者の中国語多読に対する意識調査を行ってきた。その結果、準中級者にとって多読は読解力、語彙力向上に効果があるという意識を持つということがわかったが、その一方で多読的な読み方をするには適した書籍がまだないこと、また多読の継続が現段階では難しいという課題が見えてきた。今後はこの課題に取り組み、中国語学習者が中国語初級を修了したのちに継続的に中国語に触れる機会を多読を通して作っていききたいと考える。

注

¹ 日本語は筆者による翻訳。また括弧内の言葉は日本語に訳す際に筆者が補足したものである。

² 中国語のローマ字を用いた発音表記

³ 中国語の初級、中級の教科書では単語と単語の間に空白を設け、読みやすい作りになっているものが多い。

引用文献

粟野真紀子・川本かず子・松田緑編（2012）『日本語教師のための多読授業入門』NPO 法人日本語多読研究会監修、アスク出版

呉青青（2025）「絵本の多読×翻訳×発表――中国語演習授業における絵本を活用した実践」中国語教育学会第23回全国大会予稿集

西澤一・吉岡貴芳・伊藤和晃（2008）「英語多読を通じた図書館の授業支援と地域貢献」論文集「高専教育」第 31 号 411-416

陶琳（2012）「日本人中国語学習者の学習動機の調査と研究」『外国語教育フォーラム』第 08 号 80-90

石井友美（2020）「汉语分级读物分析探讨"多阅读活动"的适合性」岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要 5 卷 31-42

呉門吉（2008）「对欧美韩日学生阅读猜词策略的问卷调查研究」云南师范大学学报 第 6 卷第 4 期 17-23